

## 令和3年度第1回黒石市総合教育会議議事録

◇開催日時 令和3年4月27日(火) 午後2時30分

◇開催場所 黒石市教育委員会 3階 会議室

◇議事日程

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 議事  
黒石市教育大綱の一部改定について
- 4 閉会

◇出席者

市長	高 樋	憲
教育長	山 内	孝 行
教育委員	宇 野	元 雄
教育委員	永 川	信 子
教育委員	後 藤	耕 谷
教育委員	柿 崎	博

### ◇説明のために出席した者の氏名

市長部局	企画財政部長	須 藤 勝 美
	企画課長	花 田 浩 一
	企画課長補佐	扇 谷 由美子
教育委員会	教育部長	村 上 靖
	理事指導課長	相 馬 保
	学校教育課長	駒 井 俊 也
	社会教育課長	村 元 裕
	文化スポーツ課長	山 口 祐 宏
	学校教育課長補佐	帛 谷 和 哉

### ◇会議の概要

#### 開会 午後2時30分

高樋市長 定刻となりましたので、ただ今から令和3年度第1回黒石市総合教育会議を開催いたします。

本会議は、黒石市総合教育会議運営要綱第5条第1項の規定により、公開となります。また、同要綱第3条第3項の規定により、私が議長を務めることになっておりますので、このまま進めさせていただきます。

まず、開催にあたりまして、一言ご挨拶させていただきます。

#### 市長あいさつ

高樋市長 お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございました。日頃から本市の教育・文化・スポーツ振興にご尽力いただいておりますことに、改めて感謝申し上げます。

先月3月29日に開催いたしました令和2年度第1回総合教育委員会では、教育

大綱に基づいて実施いたしました事業の検証を行ったほか、これを踏まえた大綱の一部見直しについてご提案し、委員の皆様方からご意見をいただいたところであります。

今回、それを整理して、改定案を本日提出させていただきましたが、これまで以上に市民に活用していただける大綱となりますよう、委員の皆様方から忌憚のないご意見をいただきますように、よろしくお願い申し上げます。

高樋市長 それでは議事に入る前に、本日の会議の議事録の署名者を決めさせていただきます。

黒石市総合教育会議運営要綱第7条第3項の規定により、議長及び議長が指名する1人の構成員が署名することになっております。私から、宇野元雄委員を指名いたしますので、よろしくお願いいたします。

宇野委員 はい。

### 議事 「黒石市教育大綱の一部改定について」

高樋市長 それでは、議事に入ります。

本日の案件は、教育大綱の5「教育施策」の中の最重要項目にあります「小学校の適正配置の推進と実現」の改定についてであります。事務局側からの提示、また、委員の皆様方からもご意見をいただいた「ICT教育の推進」や「国際化に対応する子どもたちの育成」などのキーワードを基に作成いたしました改定案について協議し、本会議で決定したいと考えておりますので、委員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

それでは、庶務から説明をお願いいたします。

学校教育課長 学校教育課の駒井です。よろしくお願いいたします。前回の会議の話を踏まえながら、私からご説明をさせていただきます。すみませんが着座にて失礼します。

まずは、前回の会議におきましては令和2年度の実施事業の検証を行い、ご意見、ご指摘、また、励ましのお言葉も頂戴いたしました。誠にありがとうございました。頂戴いただいたご意見を基に、今後、委員会も業務を進めてまいります。

また、既に完了した適正配置等の部分について見直しを行うことをご了承をいただいたところでございます。

それでは、資料に基づいてご説明させていただきます。A4の1枚紙、事前送付している資料でございます。先ほども申し上げました「◆小学校の適正配置の推進と実現」という部分、下の囲みの、小学校の統合による適正配置の完了、小学校における完全給食は開始いたしました。

新たな取組としてのキーワードは、現在、情報化・国際化社会が急速に進む中で、教育においても取り組んでいかなければならない分野かと思えます。

まずは、「ICT教育の推進」につきましては、前回こちら側でご提示をさせていただきました。委員の皆様方からも重要な部分であるというようなお話をいただきました。また、市長からも「国際化」というキーワードを頂きました。まずは、「国際化に対応する子どもたちの育成」ということを鑑みまして、タイトルとしては、①から②'までご提示させていただきました。

①は、前回も一例としてお示ししたものでございます。一例としてお示ししましたが、少し言葉足らずかなと思ひまして、少し手を加えて、①'「時代に即した教育活動の実践と安心・安全な学校教育環境の整備」。それに伴って若干表現を変

えたのが②´で、「時代の求めに応じた教育活動の実践と安心・安全な学校教育環境の整備」という4パートンを作ってみました。②´の「時代の求めに応じた」という表現は、受動的な感じを受けました。事務局としては直感的に、①´「時代に即した教育活動の実践と安心・安全な学校教育環境の整備」がじっくりいくのかなと考えております。

また、これにぶら下がる文言ですが、1つ目の囲みとして考えてみたのが、「国際的な視野を持つ人材の育成と子どもたちの情報活用能力を高めるためのICTを活用した学びを推進していくとともに、その基盤となる安心で安全な教育環境の整備を進めていきます。」と、まずは作成してみました。書き出しの部分の、「国際的な視野を持つ人材の育成」というのが、具体的に何を指すのかが見えてこないのかなというところもありまして、もう一つ、下の囲みも作成してみました。

まず、目指すものとして、「情報活用能力と国際的な視野を持つ子どもたちの育成」で、そのためには何が必要かということで、目指すものに呼応する形で、「ICT教育の推進と国際理解教育・外国語教育の充実を図るとともに、その基盤となる安心で安全な教育環境の整備を進めていきます。」としてみました。

国際理解教育は何を指すかと言いますと、市長部局でも、これから国際化に対応した施策を進めていくところであります。教育分野でもその点が必要かと思いますが、国際理解教育というのは、異国の文化や生活について理解を深めるというような意味合いを込めております。

これから、グローバル化する社会、急速なICT化がますます進むことが課題となっております。前回、永川委員からも、教育環境も変化が激しいというお話がありました。そういう世の中で、どのように自分の意見を伝えることができるかが大切だと考えます。そこで、グローバル化する国際社会を生き抜く子どもたちの育成を、ということを含めて、このように作成をいたしました。以上でございます。

高樋市長 ただ今の説明に対しまして、ご意見、ご質問等ございましたら、どうですか。

永川委員 いいと思います。私もこの資料を頂いたときに、①´と下の方の囲みでいいと思っていました。上の方の囲みだと、国際的な視野を持つ人材と情報活用能力を高めるためにICTを活用するというふうな感じで、限定されるような感じがします。下の方は、「国際理解教育・外国語教育の充実」というのが入っていますし、ぜひこの目的達成のために頑張っていたいただきたいと思いました。以上です。

高樋市長 他にございましたら、どうですか。

宇野委員 先程の説明の中で、私は②´の「時代の求めに応じた」というところが、本当に、グローバル化、技術革新等での急速な変化があって、そのためにプログラミング教育や英語教育、理数科の教育の充実などが入ってくるんです。ですので、その時代の求めに応じて学習指導要領が変わってきているので、私は②´のほうが、より適切でないかと感じました。

高樋市長 後藤委員どうですか。

後藤委員 私は①´の方がいいのではないかと感じました。囲みも、2つある中の下の方が具体的になっていますし、そちらの方がいいのではないかと感じました。

高樋市長 柿崎委員は。

柿崎委員 私は宇野委員のように②´の方がいいと思ったのですが、今、駒井課長が言ったように、受動的だと言われれば、確かにそのとおりかもしれないと思います。

同じことを言っているので、私は①´でもいいと思いました。囲みの方は、私も下の方が、より分かりやすくいいと思います。以上です。

高樋市長 教育長は。

山内教育長 私も①´と下の囲みで。②´も内容は分かりますが、若干受け身に取られ

る可能性があるということで、①´のほうがいいと思います。

それから、国際的なところは、黒石市の現在のALTの配置状況は、学校が小・中学校合わせて6校に対して4人、さらに観光課にも国際交流員が1人で、合わせて5人です。学校の配置状況から見て5人ということは、県内でもトップクラスの配置状況になっています。今、コロナ禍で遅れてはいますが、このような体制をさらに進めて、国際化の充実につなげていきたいなという思いですので、学校教育の方も国際化の所を、ICTと同時に力を入れていきたいと思っております。以上です。

高樋市長 四角囲いの方は下の方で、意見集約できているようではありますが、上の①´か②´かでご意見が割れている部分があるのですが、この辺はどうですか。

柿崎委員 私は①´でもいいと思います。そうこだわるところでもないかと。

後藤委員 そうですね。

宇野委員 市長。先ほど駒井課長から説明があった「国際理解教育・外国語教育の充実」、これは以前から言われていることですが、「異文化理解」に関して、あるいは国際感覚というのかな、以前は黒石市も他国の都市と姉妹都市締結をして、より異文化理解を進めてきたのですが、これからの中身として、外国との交流等は市長さんは考えていらっしゃるのでしょうか。

高樋市長 企画課に国際政策係を今年度から設けました。なぜ企画課に置いたかということ、国際交流や貿易など、そういう広い感覚で協議してもらおうということで、企画課に置きました。昨年度までオーストラリアのクレアのシドニー事務所に行っていた職員が帰って来て、4月からその担当係長になっています。

オーストラリアにいたときから、できれば英語圏の子どもたちの国際交流・ホームステイ等を行いたいという気持ちで、職員にもその方向で少し接触していただいた経緯があるんです。ただそれが、今、コロナ禍でちょっと厳しい環境で、先が見えている状況ではないのですが、今回、市としても、貿易等でもオーストラリアに少し力を入れていますので、英語圏の所ということで考えたときに、オーストラリアとの、子どもたちのホームステイ交流を何とか実現したいと考えておりました。ですので、宇野委員がおっしゃるように、ぜひ子どもたちに国際感覚を身に付けていただき、そして英語に慣れていただく、そういう環境に近づけていきたいと考えております。

宇野委員 ありがとうございます。そういう意味では、国際理解教育というのは、文言として出していいのかなと思いました。

高樋市長 ありがとうございます。

永川委員 今回のICT教育、国際理解教育・外国語教育を充実させるためには、やはり人材の確保がとても大切になってくると思います。

文科省の方でも専任の教諭を小学校に置くという話が出ていますが、やはりプログラミングをきちんと指導できる教諭、英語の免許を持った、高校・中学校の免許を持って小学校でもきちんと免許を持った人が教えることができるというのがすごく大切になってきます。免許がなくて押し付けられた感があると、先生たちも意欲が出ませんし、その辺の人材確保の面で、県の方へとか、要請をするべきだと思います。頑張ってください。以上です。

高樋市長 ICT教育に関しては、専門分野の派遣も可能になってきているはずですよ。ね。

山内教育長 はい、そうです。

高樋市長 実際、学校の先生方がICT教育を指導するのは、なかなか厳しいという認識です。やはり専門を、県教委を通して派遣していただきながら指導に当たって

いく。

また、外国語教育も、今、小中連携、小中一貫という大きな目標に向かって進んでいる段階において、小・中学校の先生方の交流も上手く活用しながら、小学校での外国語教育に対応できればと考えています。同時に、ALTも、今、総務省の方に打診して、できれば一学校一ALTをぜひ実現したいということで、それも取り組んでおります。

併せて、教育委員会の方には県教委との情報交換を十分して、より教育環境の充実を、マンパワーの教育環境の充実を、一つ、進めていただければと考えております。

永川委員 よろしく申し上げます。

高樋市長 よろしいですか。他にご意見ございましたら。

宇野委員 意見ではありませんが、説明の中にある、「その基盤となる、安心で安全な教育環境の整備を進めていきます」は、非常に保護者に安心感を与える言葉だと思います。前は、「環境の整備を進める」とありましたが、今は学校の危機管理、安全対策の充実が一番求められていると思うので、その辺の文言が入ったところが大変良かったと思います。

高樋市長 ありがとうございます。他にありますか。よろしいですか。

後藤委員 今回ではなくて次回の教育大綱についての提案ですが、文言については非常に良くまとまっています。ぱっと見たときに、具体的には何をやっているのかが見えてこないと思います。前回の会議の時に令和2年度の事業検証資料が出ていましたので、それを基にして、最重要項目の一つ一つに、具体的な事業を1行ずつ加えてはどうでしょうか。例えば、「確かな学力と豊かな人間性の育成」では、具体的な事業として、「UPる」先生事業とか、外国語指導助手事業とか、就学援助事業などという形で、1行ぐらいにまとめて、二、三の事業を入れていく。黒石市で独自にやっているものや特別に力を入れているものなど、具体的な事業を1行程度加えていく。そうすると11行ぐらい増えて、具体的なことも分かるのではないかと思いますので、次回から検討していただければと思います。以上です。

高樋市長 今のご指摘については、市民が見ても、誰が見ても分かりやすい大綱であるべきだという観点から、大変良い取組だと考えますので、次回の教育大綱から、その辺を記載するようにさせたいと考えます。ありがとうございました。

他にございますか。

山内教育長 後藤委員のご意見ですが、確かに細かい事業を記載すれば後で評価するときに分かりやすいというのがありますが、それに記載できなかった事業、その他の事業もたくさんあります。

よく私は辞令交付式で、一番近いところではスポーツ指導員の辞令交付式で、一市民一スポーツという言葉も入れて話をしますが、そういう事業はそこに入っていないんです。今言った事業に。したがって、ある程度含みを持たせた大きな言葉の方が、それぞれの事業に結びつきやすいという利点もありますので、あまり限定してしまわない方も大切なという気もしていました。以上です。

高樋市長 他にございますか。

永川委員 ホームページ等を見なさいというよりも、児童生徒を通じて保護者に大綱を配付するほうが、周知徹底につながるのではと思いました。黒石市役所とか教育委員会のホームページを開いて自ら見るという人は、なかなかいないのではないかと思います。大綱の1、2、3、4、5だけでも文字を小さくして、A3版の表裏の大きさを渡すことができれば、見る人がいるのではと思いました。以上です。

高樋市長 教育大綱ですので、小学校入学時に保護者に渡すことができれば一番いいん

だと思えます。

永川委員 なるほど。義務教育が始まりますということですね。

高樋市長 当市はこういう大綱で、義務教育、小学校、中学校の教育をやっていますと説明させてもらうというのは、あってもいいのかなと思っています。

永川委員 入学式の後などに、ちょっと説明をするというのはいいですね。

山内教育長 今、実際やられているのは、学校関係では校長会議とか、あるいは社会教育会議ではそれぞれの団体の長が集まるときに、大綱はこのように決まりましたという説明はしていますが、将来のことを考えれば、広く市民にも、そういう機会があってもいいという気がしていました。

高樋市長 他にご意見ございますか。よろしいですか。

まず、来年度に向けて、今の各委員からご指摘があったことを上手く整理した上で、多くの市民が理解を深められるような大綱の取組をしていきたいと考えています。整理の仕方に関しましては、私どもにご一任していただければと思います。

よろしいですか。

(はい)

高樋市長 では、そのように進めさせていただきます。

もう一度整理しますが、まずは①「時代に即した教育活動の実践と安心・安全な学校教育環境の整備」に、四角の囲みにつきましては下の方の、「情報活動能力と国際的な視野を持つ子どもたちの育成のため、ICT教育の推進と国際理解教育・外国語教育の充実を図るとともに、その基盤となる安心で安全な教育環境の整備を進めていきます。」に改定させていただきたいと考えています。

よろしいですか。

(はい)

高樋市長 それではそのように、「黒石市教育大綱の一部改定について」は、決定させていただきます。

一部改定後の教育大綱につきましては、後日、事務局から委員の皆様方へ配付するとともに市のホームページへ掲載し、広く周知して、今年度はそのような対応で周知してまいりたいと考えておりました。また、来年度につきましては、先ほどご指摘いただいたことを十分踏まえた上で、私どもで検討し、そのように取り組ませていただきたいと思います。

その他、委員の皆様からご意見等がございましたら。

(なし)

高樋市長 ないようでありますので、本日の議事はこれで終了いたしました。議事進行にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、令和3年度第1回黒石市総合教育会議を閉会いたします。本日は、本当にありがとうございました。

閉会 午後2時55分

